

時計台前から

VOL. 45
JULY/2003

SAPPORO INTERNATIONAL COMMUNICATION PLAZA FOUNDATION

特集 札幌コンベンションセンターが遂にオープン



〒060-0001札幌市中央区北1条西3丁目札幌MNビル
Kita1 Nishi3, Chuo-ku, Sapporo 060-0001 JAPAN
TEL:011-211-3670 FAX:011-211-3673
E-mail:sicpf@poplar.ocn.ne.jp
HOME PAGE:http://www.plaza-sapporo.or.jp

市民公開プログラム実施協力、ほか

コンベンション

第9回「国際冬の見本市」出展者募集、ほか

経済交流

北東アジア・米国学生集中講座2003、ほか

市民交流

プラザ助成金(2003年度後期分)交付申請受付、ほか

Information



「river」撮影風景(地下鉄車内)

欧州向け新車カタログ撮影風景(モエレ沼公園)

あなたの身近な場所を
映画に登場させて
みませんか?

ロケ協力施設・ロケ推薦場所を募集中!
さっぽろFCでは、ロケ地情報を集めています。
ロケに使ってほしい施設、推薦したい場所がありましたら、
どんどんご応募ください(例えば、一戸建て住宅、
商店街、会社、工場、倉庫、病院、学校、ビル、
昭和の時代の古い建物など)

ご応募

ホームページ <http://www.sapporofc.jp/index.html>
のロケ地投稿・推薦フォームから、または、お名前
(ふりがな)、住所、電話番号のほか、施設の名称・
所在地・特徴などを記入して、郵送・ファックス
(FAX.011-232-3833)で受け付けています。

映画・ドラマなどの撮影を支援 さっぽろフィルムコミッション(FC)

ロケーション盛んな初夏の札幌

澄みきった空、湿度の低い爽やかな気候をと
め、梅雨の季節に入る道外の映像関係者
から、映画・テレビドラマ・CMなどのロケ地情
報の提供依頼や撮影の要請が、さっぽろFC
に相次ぎました。

テレビドラマやバラエティ番組のロケのほか、
自動車会社の欧州向けカタログの撮影が、イ
ギリスからスタッフが来札し、モエレ沼公園や
中島公園、茨戸川ポート競技場付近などで行
われました。

また、札幌在住の人気放送作家・タレント
鈴井貴之氏第2回監督作品「river」(8月末

公開予定)のロケが札幌市内近郊で行われ、
さっぽろFCでは、公園使用許可の申請代行
や地下街、地下鉄車内での撮影をサポート。
映像のなかの札幌をご期待ください。

フィルムコミッションは、経済促進・観光効果
だけでなく、市民の皆さまの文化活動に対す
る参加意識の向上、地域への関心から街づ
くりへの参加、ロケを通じた人びとの交流も
生まれます。皆さまが楽しみながらロケに参加
協力できる機会が増えるよう、これからも環境
づくりに力をいれていきます。

人と人が響きあう。

札幌コンベンションセンター

特集 札幌コンベンションセンター
オープン

6月1日(日)、札幌コンベンションセンターが札幌市白石区東札幌にオープンしました。

オープンに先立ち、5月29日(木)には開館記念式典が行われ、札幌市長職務代理の佐々木喜四助役や桂信雄理事長、関連企業、経済関係者などが出席。さらに5月31日(土)にはこけら落としとして「外国人による日本語弁論大会」が開催され、高円宮妃殿下がご臨席されました。

センターは2,500人収容の大ホール、6カ国語の同時通訳が可能な特別会議場、会食、パーティなどにも利用できる中ホール、階段形式で固定席の小ホールのほか、大小15の会議室などを備えており、国際的な会議をはじめ市民の方々や企業の会議にもさまざまな用途に利用可能となっております。

オープン以降、学会をはじめすでに数多くの催事で利用され、7月2日(水)にはアジアで初めて開催された国際測地学・地球物理学連合(IUGG)総会に、天皇 皇后両陛下がご臨席されました。



オープニングセレモニー

5月29日(木)午前10時から、札幌コンベンションセンターの開館記念式典が行われました。

さわやかな晴天の中、札幌市消防音楽隊による演奏を皮切りに、佐々木喜四札幌市長助役のあいさつ、続いて北海道副知事らによるテープカットと同時に屋上からは「SORA」をイメージした青と白の風船が空高く舞い上がり、式典に色を添えました。

記念式典に続くレセプションでは、映像及びナビゲーションによる札幌市のコンベンション推進への取り組みとセンター紹介が行なわれたあと、施設内覧会において、大ホールをはじめ最新鋭の設備・機能を有したさまざまな施設が紹介されました。

第44回外国人による日本語弁論大会開催

この大会は、5月31日(土)、国際交流基金、財団法人国際教育振興会、プラザの主催、外務省、文化庁等の後援により、札幌コンベンションセンターのオープニング記念事業として約700人の聴衆を集め盛會裡に催されました。

同大会は毎年東京で開催されていましたが、平成10年から地方開催を行うようになり、北海道での開催は今回が初めて。午後1時に開会、高円宮妃殿下のお言葉を賜った後、プラザ桂信雄理事長の開会の挨拶があり、日

本各地から応募のあった147人の中から予選を通過した出場者12人が、日本での生活を通して感じたことなどについて流暢な日本語を披露しました。

審査の間には特別公演として、北海道札幌白石高校吹奏楽部による演奏が披露されました。

審査の結果、外務大臣賞にはマレーシアのザイヌル・アクマさんの「ぼくの大好きがまくろになった理由」、文部科学大臣奨励賞には韓国のキム・ミンアさんの「なくそうバ



ア、ふやそう心のバリアフリー」、他に札幌市長賞など4賞が選ばれ、受賞者には賞状賞杯と副賞が授与されました。また、引き続き、特別会議場において行われたレセプションでは、受賞者・関係者が交流を深めました。

ーが遂にオープン

「この惑星の今」- 未来への挑戦 - 第23回国際測地学・地球物理学連合(IUGG)総会開催



6月30日(月)から7月11日(金)までの12日間、ロイヤル札幌、北海道厚生年金会館、札幌市教育文化会館、札幌メディアパーク・スピカを会場に、第23回国際測地学・地球物理学連合(IUGG)総会が開催されました。7月2日(水)には天皇皇后両陛下が御臨席される中、歓迎式典が札幌コンベンションセンターで開かれ、地元を代表した北海道大学交響楽団の演奏がオープニングに彩りを添えました。

IUGGは、「地球・惑星科学」をテーマに研究する国際的な非営利の学術組織です。研究領域は地球環境・気候変動、石油・鉱物/水等の資源・エネルギー、海洋・大気圏・電離圏・磁気圏など多岐にわたっており、地震・

火山噴火・津波・台風・洪水・豪雨など自然災害問題なども研究領域に含まれています。アジアで初めての開催となった今回の総会には、100カ国・地域から総勢4,584人の研究者が集まり、道内で行われたこれまでの国際学術会議の中で最大規模となりました。

会期中、毎日約30会場で研究発表と討論のセッションが開催され、スピカで行われたポスターセッションでは、臨時で設けたピアテラスが大賑わいし、ビールを片手に活発な議論が繰り広げられていました。また、会場近くの大通公園には、多くの参加者が繰り出し、国際色豊かな風景が見受けられました。



市民向けプログラム みんなで地球の未来、考えた

IUGGでは、数多くの市民プログラムが開催されました。市民大学講座では、「地震:その予知と防災」、「天気現象の理解と予測」など、社会活動に密接に関わる10テーマで5回にわたる講座が開催され、多くの市民の方が聴講、毎回、沢山の質問が出されるなど大変好評でした。

また、石狩支庁管内と市内の小学校では、研究者による出前授業が行われ、小学生の素朴な質問に懇切丁寧に回答、楽しい授業となりました。

IUGGジュニアセッション、中学生ミーティングでは、中高生が地球科学や環境問題などについて日ごろの研究成果を発表し、各国の研究者から評価、助言をもらいました。そうした中で科学の面白さを知り、未来への夢を育むなど、世界の研究者との交流に大変興奮した様子でした。

このほか、道内10市町村で特別講演が、また、科学館特別プログラムが道内4市1町で行われました。

同伴者プログラム さっぽろ満喫。



IUGG総会同伴者の方々に、楽しい札幌の思い出を持ち帰ってもらおうと、札幌国際プラザでは、天神山国際ハウスでの着付・茶道・華道・書道の体験のほか、和食の調理・試食、寿司ランチ、日本酒の利き酒などのプログラムで日本の文化に触れる機会を、また北海道開拓記念館、北大植物園資料館などでアイヌ民族の文化を知る機会を企画し、ボランティアのコーディネートで運営しました。参加した同伴者の方々に大変喜ばれ、日本の文化、札幌の魅力、快適な季節を満喫してもらうことができました。

ボランティア・ホームステイ 札幌のホスピタリティー

会議開催中、インフォメーションデスクや空港出迎えサービス、同伴者プログラム、歓迎式典のサポート等で外国語ボランティアをはじめ、延べ468名のボランティアが活躍しました。メイン会場のロイヤル札幌では、開始前日から参加者の問合せに慌しく対応するボランティアの姿が印象的でした。新千歳空港での出迎えサービスでは、千歳ボランティア通訳クラブや北海道文教大学の学生さんにも積極的に活動して頂きました。

また、今回は初めての試みとして、会議参加者のホームステイを実施いたしました。アジア、アフリカ、北米、南米、ヨーロッパから80名を超える申込みがあり、プラザのホームステイ制度登録家庭のほかに関係団体や新聞募集を通してご協力いただいたご家庭もありました。ほとんどのゲストの方が初めての来札で、言葉や交通機関の使い方に戸惑いもあったようですが、札幌のホスピタリティーに対して、多くのゲストの方々から感謝の言葉が寄せられました。



世界を舞台に活躍する、日本語教師



20カ国以上の留学生と異文化交流、多文化の共有を体験できる日本語学校です。

あなたのご都合に合わせた3コース
日本語教師養成講座

専科(6ヵ月間集中)
本科(夜間一年)
本科(全日制・夜間)

入学時期は4月、9月の年2回となっています。本校の詳細については、右記の住所まで500円切手を同封の上、入学案内をご請求下さい。

外国人のための日本語
JAPANESE FOR FOREIGNERS
大学進学コース 一般日本語コース

(財)日本語教育振興協会 認定校
札幌国際日本語学院
Japanese Language Institute of Sapporo

〒064-0806札幌市中央区南6条西26丁目2番7号
地下鉄円山公園駅徒歩7分
TEL.011-562-7001 FAX.011-562-7002
http://www.jli.co.jp E-mail:info@jli.co.jp

札幌で世界最先端の研究成果を共有する 市民公開プログラム実施協力ほか、多彩な学会会議開催支援!

プラザ・コンベンションビューローでは、学会会議開催支援の一環として、市民向けプログラムの企画運営に協力し、市民への学術研究成果の還元を促しています。6月には、開業間もない札幌コンベンションセンターを舞台に、2002年ノーベル化学賞受賞者を含む世界トップレベルの研究者を招いての講演・シンポジウムが行われました。

日本顕微鏡学会第59回学術講演会

2003.6/7~9

名城大学理工学部教授・飯島澄男氏による講演と、機器展示会場での操作体験が開催されました。6月8日「一般向け講演・展示」に加え、続く9日(月)には、東札幌小学校6年生を招いての「教育講演・展示体験」が実現。光を使った実験や、炭素材料を間近に眺めながらの講演はあっという間に時間が過ぎ、

講演後には「“ナノ”よ小さな世界は?」といった質問も投げかけていました。講演終了後には機器展示会場へ場所を移し、専用回線で結ばれた北海道大学の走査電子顕微鏡を遠隔操作する体験に、子どもたちは驚きと興味でいっぱいの様子でした。



日本発生生物学会第36回大会

2003.6/11~13

クローン動物研究など社会的・倫理的な課題をも含む発生生物学分野は、ここ数年の変化が著しい研究領域としても知られています。6月13日(金)に催された「幹細胞・クローン動

物研究と社会的課題」と題しての公開シンポジウムには、学会員に交じって多くの市民が参加し、京都大学再生医科学研究所・中辻教授らによる最新の研究発表に聞き入っていました。



第3回日本蛋白質科学会年会

2003.6/23~25

6月24日(火)には、Kurt Wüthrich氏(スイス連邦工科大学教授、2002年ノーベル化学賞受賞)柳田敏雄氏(大阪大学大学院教授)長田義仁氏(北海道大学副学長)の三氏による講演会が開催されました。それぞれの研究成果がいかんにかして導かれたか、そして科学者としての人生を語る講演に、訪れた市民は学会員とともに熱心に耳を傾けていました。

蛋白質の構造と機能の研究は、北海道大学においても21世紀COEプログラム「バイオとナノを融合する新生命科学拠点」として取り組まれる領域であり、札幌を舞台とした産学官協働による研究開発の進展と、いっそうの知的資源の集積が期待されています。



7月以降も、学会会議の市民向けプログラムが開催される予定です。ぜひお誘いあわせのうえご来場ください!!
お申込み方法など、最新情報はこちらから <http://www.plaza-sapporo.or.jp/cseminar.html>

コンベンション関連産業札幌ネットワーク 札幌へスーパーコンベンションの誘致を! - 総会開催



5月9日(金)、2003年度コンベンション関連産業札幌ネットワーク総会がZepp Sapporoにて開催され、会員企業を始め約100名が参加しました。2002年度に開催した企画コンベンションCMフェスティバルなどの事業報告に引き続き、今年度事業として、11月にコンベンションセンターで予定されている「北海道フォトコンベンション2003」の実施や、「スーパーコンベンション誘致」などの事業計画が承認されました。主要国首脳会議(G8サミット)や日本医学会総会、国際スポーツ大会などの大型コンベンションを、官民が一体となって誘致活動を展開し、PR活動を進めていこうという方針は内

外から大きな注目を浴びました。第2部のコンベンションセミナーでは、(株)福岡ドーム・シーホーク営業部の嶋田和泉氏に「アジアの拠点都市・福岡にふさわしいコンベンション施設をめざして」と題してご講演をいただきました。大型施設とプロ野球チームが一体となった活動についてのお話は大変興味深く、参加された皆さんは熱心に聞き入っていました。また、総会後には懇親会が開催され、各会員企業の方々が嶋田氏をまじえながら、札幌のコンベンションの今後の展開などについて語り合いました。

2004年2月にアンカレッジで開催される見本市に出展してみませんか? 第9回「国際冬の見本市」出展者募集のお知らせ

「北方都市市長会議」は北国特有の諸問題を話し合う場として、2年に1度、世界の積雪寒冷地域に位置する各国諸都市の市長が集まって開催されていますが、2004年2月には、米国アラスカ州アンカレッジ市において、これと併せて「国際冬の見本市」が開催される予定です。プラザでは、この「第9回国際冬の見本市」において、北方都市が有する冬に関する製品を展示していただける企業の出展支援を下記のとおり行います。



開催日程：2004年2月18日(水)~19日(木)

開催地：米国アラスカ州アンカレッジ市

会場：サリバン・アリーナ(アンカレッジ市内)

募集分野：融雪・除雪・環境・リサイクル、建設、輸送、通信、住宅、生活関連産業etc.

申込締切：2003年8月29日(金)

出展料：1ブース(304cm×243cm)あたり25万円()

スペース料、ブースサイン作成料、カーペット、パネル、カウンターテーブル、イス、消火器、スポットライト3台、企業PR用英文リーフレット作成費の一部を含みます。

苫小牧~アンカレッジの出展品往復輸送費(1.2m×1.2m×1.2mまで)、通訳雇用費は札幌国際プラザが負担いたします。

【支援内容】

展示会場の確保、主催者に対する企業・団体の出展申込み
企業PR用英文リーフレットの製作
(原稿は各出展者に作成していただきます)
苫小牧~アンカレッジ間の出展品往復輸送の手配
展示会場での基本備品の手配、通訳の手配
共通備品の借上げ、消耗品の調達

実務経験者が語る中国進出の実態とは 中国ビジネス・セミナー開催



3月13日(木)、ホテルニューオータニ札幌において、日本貿易振興会北海道貿易情報センターとの共催で、「中国ビジネス・セミナー」を開催しました。セミナーは二部構成で行われ、第一部は「中国ビジネスの成功要因 ~そのポイントとトラブル回避策~」と題し、JETRO海外調査部 中国・北アジアチーム アドバイザーの藤多 庸雄氏にご講演をいただきました。続く第二部では、大連市ソフトウェア産業日本

事務所 代表 許炎氏による「中国のIT産業の実情 ~ソフトウェア会社の経営実務~」についての講演が行われました。いずれも今後の中国におけるビジネス活動の参考となるような、中国経済・投資環境と進出の実態についての内容で、当日は定員を上回る71名の参加がありました。実務経験者による具体的な講義内容に、参加者の満足度も大変高く、セミナーは盛況のうちに終了しました。

アジアからのJICA研修生が5月の札幌を訪問

5月7日(水)、日本政府の協力のもと国際協力事業団(JICA)が実施している貿易・投資促進実務セミナー参加者13名が、45日間の日本での研修プログラムの一環として2泊3日の日程で札幌を訪れました。今年はアジア

を日本に招き、日本の産業・貿易・投資関連政策についての研修が行われており、カンボジア、タイ、ミャンマー、ラオス、中国、インド、ネパール、パキスタン、インドネシア、フィリピン、ウズ

ベキスタン、キルギスの12ヶ国からの参加がありました。一行は札幌では、自国産業の振興のヒントを得るべく、市内経済団体、自治体、工場等の視察や交流を行いました。



困ったときはおたずねください。
秘密を厳守します。

- 外国人との結婚や子供の国籍問題
- 日本国籍の取得や永住許可手続き
- 外国人社員の雇用や日本への招聘
- 在留資格の変更や期間更新の申請

法務大臣承認入国在留申請取次者

行政書士 滝沢 俊行

札幌市中央区南3条西10丁目杉山ビル1F
TEL.011-261-2465
E-mail:takizawa-t@gyosei.or.jp
<http://www.2s.biglobe.ne.jp/~takitomo/>

国際結婚・国籍
永住の相談と手続



2002年度成果発表会の様子

8月6日に市民講演会と成果発表会を開催～参加申込み受付中! 北東アジア・米国学生集中講座2003

青少年人材育成の一環として、次代を担う5カ国(中・韓・露・米・日)の学生が一堂に札幌に集い、北東アジアの環境問題・経済問題・地域安全保障についてさまざまな視点から考える「北東アジア・米国学生集中講座2003」を7月28日(月)から8月6日(水)まで開催します。

最終日の8月6日(水)には北海道東海大学国際文化学部長の小林公教授を講師

に迎え、「イラク戦争と北朝鮮問題 北東アジアの平和のために何が必要か」をテーマに市民講演会を開催するとともに、参加学生達が講座から学んだことを一般市民の方々に向けて発表します。5カ国の参加学生が率直な意見やアイデアを日本語で発表しますので、参加ご希望の方は下記までお電話でお申し込みください。

場所：札幌国際プラザ5Fホール(中央区北1西3)
日時：平成15年8月6日(水) 14:00～15:00「市民講演会」 15:00～17:00「成果発表会」
申込先：市民交流部交流事業課 TEL.011-211-2105

「韓国KIDSクラス」 ～お隣の国、韓国の文化を実体験

お隣の国である韓国のことを知ってもらおうと、6月7日(土)より毎週土曜日、4回に渡り子どもを対象とした韓国の文化体験教室が開かれました。

札幌市国際交流員の盧希珍(ノヒジン)さんを講師とした講義や親子料理教室の他、韓国の国技であるテコンドーを札幌市内で実際に教えている講師を迎えた体験授業も行われました。その他、ハンゲル・文化比較・環境・韓国風づくりなどの様々な内容に、子供達は積極的に一生懸命取り組んでいました。

一番身近にあるものこそ忘れられがちですが、日本と韓国は、様々な分野においても密

接な関係を持つ国同士です。子供達は隣国である韓国を知るため、まず自分の国のことを知ることに大事さも学んだようでした。



大学と地域の国際化について考える

札幌圏大学国際交流フォーラム・公開セミナー開催



6月24日(火)から7月24日(木)毎週1回の全5回で公開セミナーが行われました。第1回は「北大大学院留学生と八軒西小学校児童の交流会 - その成果と課題」について、北海道大学留学生センターの柳町智治助教授よりお話を頂きました。この交流は20年近くも続いており、留学生は日本語を実際に使うことや感情豊かな子ども達に歓迎される

喜びを得、小学生は実体験から学ぶことの大きさを実感するという双方に実りの多い貴重な時間を共有しているとのこと、今後は、国と国というより、人と人との交流に主眼をおきたいとお話がありました。第2回から第5回のセミナーも、ロシアや北欧との大学の関係、小樽における外国人入浴拒否裁判などを取り上げ、活発な質疑応答を通して講師と参加者が一緒に国際化とは何かを考える時間を持つことができました。

各種説明会、相談会の開催

プラザでは4月4日(金)に行政書士北海道在留手続協議会との共催により行政書士によるビザと国際結婚に関する相談会を、5月23日(金)に外国人法律支援ネットワークとの共催により外国人のための法律相談会をそれぞれ開催しました。就労、結婚、ビザ等で法律の壁に挟まれてしまう外国の方が気軽に相談できる場所として好評を得ている事業であり、今後も実施される予定です。

また、5月17日(土)には、駐札幌オーストラリア領事館との共催によりオーストラリアビクトリア州立学校への留学セミナーが実施され、400校を超える州立の高等学校の案内やオーストラリアへの留学の情報、教育制度、卒業後の資格に関する情報提供などが行われました。

ODA大綱改革 意見交換会・開催

ODA(政府開発援助)大綱の見直しと改訂が進められるにあたり、外務省と市民との意見交換の場を設けるため、4月27日(日)ODA大綱改革意見交換会が実施されました。札幌意見交換会準備会とプラザの共催で行われ、外務省政策課の平田健次企画官を迎え、大学生やNGO関係者、また政府開発援助に関心のある市民とODAの今後のあり方について活発な意見交換が行われ、大変意義深い事業となりました。

1本のバナナから～私たちの暮らしと世界のつながりを考える 開発教育セミナー

6月29日(日)開発教育セミナー「1本のバナナから～私たちの暮らしと世界のつながりを考える～」が北海道開発教育ネットワーク(D-net)とプラザの共催で、プラザコンベンションホールにおいて開催されました。今回は講師に大津和子札幌教育大学教授をお迎えして、私達が普段何気なく食べているバナナにつ

いて考えました。生産地フィリピンに焦点を当て、現地でバナナ栽培に携わる人々の暮らしやその生産方法などについて、スライドや統計資料などを使ってわかりやすくお話いただきました。約40名の参加者は5人ずつのグループに分かれ、実際にバナナを買うときに何を基準にして買



うのか、どうして買うのかなどを話し合いました。参加者は、1本のバナナを通して日本と外国とのつながりを再認識すると同時に、バナナ以外のフルーツをはじめ様々な輸入食料品についても関心を持たれたようでした。



ミュンヘン市民大学一行来札

札幌の姉妹都市、ドイツミュンヘン市より市民大学の日本語講座の一行16名(引率:谷村哲氏)が日本研修のため、6月8日(日)～6月10日(火)まで札幌に滞在しました。

滞在中、一行はホームステイを通して日本の家庭生活を体験。9日(月)には日頃からドイ

ツとの交流に携わっている市民との昼食交流会が札幌・ミュンヘン姉妹都市交流会と札幌国際プラザの共催により行なわれました。箏曲演奏や歌、リコーダーの演奏などによる文化交流が行なわれ、姉妹都市ミュンヘン市との友好が深められた一場面でした。

札幌天神山国際ハウス宿泊者講演会

平成15年度第1回札幌天神山国際ハウス宿泊者講演会が6月14日(土)に行なわれました。

今回はハワイ大学美術学部ファイバークラムの主任教授、パット ヒックマン氏により、「ファイバークラムの美そしてその表現法」と

題して世界各地のテキスタイル作品及び自分自身の作品をスライドを使って紹介されました。スクリーンに映し出された作品は約120点。当日は生憎、小雨模様の天候でしたが、参加者は40名を超え、今までほとんど眼にしたことがない、珍しい形状の作品の世界に深くひき

こまれ、まばたき1つせずパットの解説にじっと耳を傾けていました。1時間15分が非常に短く感じられる、興味深い講演となりました。



国際交流員の近況紹介

ディーナ・ヘレガン(アメリカ)さん、ズイモーネ・クルズル(ドイツ)さんが帰国

このたび、国際交流員のディーナ・ヘレガン(アメリカ)さんとズイモーネ・クルズルさんの2人が任期を終え帰国することになりました。ディーナさんは、2000年7月からズイモーネさんは、2001年8月からプラザや札幌市国際部において、交流事業の企画調整、実施をはじめ、レッツトークプログラムや通訳・翻訳など大活躍されました。帰国にあたって、お二人から札幌での国際交流員としての思い出やメッセージを頂きました。

ディーナ・ヘレガン

札幌は、地下鉄など都市としての基盤が整っていきながら、東京や大阪のように雑然とはしていません、本当に暮らしやすい街でした。長い冬期間の寒さ、凍結した路面には戸惑い、何度も滑って転んでしまいましたが・・・(笑)

ポートランド市との市民レベルの姉妹都市交流が活発に行われていることやレッツトークプログラムの参加者の多さには驚きましたが、幅広い世代の方々から多くの楽しいお話を聞かせて頂くことができました。また、小・中学校を訪問した際、映画や報道の影響なのか、多かった質問が「鉄砲をもっていますか?」だったのにはちょっとびっくりしましたが、看板や黒板の絵などでの歓迎や感謝のお手紙にはとても感動しました。

3年間があっという間に過ぎ、まだまだやり残したことがたくさんあるというのが正直な気持ちです。在任中本当に多くの方々にお世話になり、心から感謝しています。



ズイモーネ・クルズル

札幌・ミュンヘン姉妹都市提携30周年記念の各種行事、特に札幌で初めての開催となったクリスマス市の準備・調整に係わったことは、任期中一番の思い出となりました。ドイツと日本の文化や仕事の進め方などの違いとその調整に苦労もありましたが、札幌市民の方々にドイツの伝統行事の一部を感じてもらえたことができたことや、来場者に喜んで頂いたことは、大変嬉しく、自分にとっても貴重な経験となりました。

また、小・中学校を訪問した際、予想以上にドイツの認知度が高かったこと、着任してから始めたレッツトークプログラムの参加者などドイツに関心を持ってくださる市民の方が多かったことにも驚きました。

任期中多くの皆さんに大変お世話になりました。本当にありがとうございました。



news!

黄先青さんが プラザの一員に

2003年4月から黄先青さんが中国からの国際交流員としてプラザの一員に加わりました。黄さんは、安徽省林業庁の公務員であり、2000年度には、高知県において林業全般の研修を受けた経験があるそうです。黄さんに今後の抱負を頂きました。

「今後、各種交流事業、レッツトークプログラム、小・中学校等の総合学習支援などを通して、中国の歴史、文化などを伝えるとともに、多くの市民の方々と友達になり、交流を深めていきたいです。また、北海道の自然、文化(お祭り等)、生活などにも積極的に触れていきたいと思っています。みなさんよろしくお願ひいたします。気軽に声をかけてください。」



01 プラザ助成金(2003年度後期分)交付申請受付

札幌国際プラザ助成金は、札幌市で開催されるコンベンション(全国規模以上の大会・会議など)事業や、市民と在住外国人との交流事業などの国際化関連事業に対して交付いたします。

8月1日
から

【申請受付期間】 2003年8月1日(金)~2003年8月29日(金)

土・日・祝日を除く

【交付決定時期】 2003年9月下旬

【対象事業期間】 2003年10月1日(水)~2004年3月31日(水)

【主な対象外事業】

札幌市または同市の外郭団体から補助・助成等を受けるもの
芸術文化やスポーツに係るもの
宗教活動、政治活動またはこれらのいずれかに類するもの

【申請方法】

募集案内に添付している申請書に必要事項を記入のうえ、申請受付期間内にプラザ総務課に提出してください。募集案内はプラザ総務課(3F)で配布しています。

【お問い合わせ】

札幌国際プラザ総務課 電話011-211-3670

02 新規賛助会員報告

2003年6月30日現在(敬称略)

【個人会員】 中田 信夫 / 中西 晴美
藤本 智夫

【団体会員】 (株)匠デジタル工房
(株)HPI

【個人会員】1,075人 【団体会員】365団体
ありがとうございます。

賛助会員
募集中

個人会員 / 一口3千円

団体会員 / 一口2万円

ご加入は、お電話でお気軽にお申し込みください。

電話(011)211-3670(札幌国際プラザ総務課)

03 コンベンションカレンダー HP開設!

<http://www.plaza-sapporo.or.jp/conven.html>

札幌市内で開催される学会会議、大会、イベントを種別・日付順にまとめた冊子「コンベンションカレンダー」が、ホームページ上でもご覧いただけます。現在、4月~7月までの情報をPDFファイルで公開中(無料アクセス)。毎月末頃に、翌月の情報を順次掲載します。内容詳細はホームページにて、または下記担当へ直接お問い合わせください。

【お問合せ】

(財)札幌国際プラザ コンベンションビューロー 支援課
〒060-0001 札幌市中央区北1西3 札幌MNビル3F
電話 / 011-211-3675 FAX / 011-232-3833
電子メール / calendar@plaza-sapporo.or.jp



PUBLICATION

プラザ出版物のご案内

札幌国際プラザでは、下記の出版物を作成し販売しています。ぜひ、ご利用ください。

『めいかん』2003年度版 / 定価800円

札幌市を拠点に活動する国際交流・協力団体192団体を掲載。

2003年度コンベンションカレンダー / 定価800円

2003年度4月以降の札幌市におけるさまざまなコンベンションの開催予定を掲載。

HOKKAIDO SKI GUIDE(英語・日本語併記) / 定価400円

北海道内の主なスキー場や札幌市内のクロスカントリースキーコースを掲載。

HOKKAIDO CAMPING GUIDE(英語表記) / 定価400円

北海道内の主なキャンプ場の施設概要を掲載。

HOKKAIDO TREKKING & ONSEN GUIDE

(英語・日本語併記) / 定価400円

北海道内の主な登山コースや温泉地・宿泊施設を掲載。

HOKKAIDO YOUTH HOSTEL GUIDE

(英語・日本語併記) / 定価400円

北海道内にあるユースホステルの施設概要などを掲載。

日本語の教え方、教えます。

日本語教師養成講座

教育訓練給付制度適用

(コース修了後、授業料の80%、最大30万円が戻ります)

- 本格的420時間実力養成集中講座
- 本科昼間6カ月コース・本科夜間1年コース
- 専修科単位取得コース1年コース

説明会随時実施中!

お問い合わせ、お申し込みは、通話料無料のフリーダイヤルで
0120-57-47-37

今年も100名のAET(英語指導助手)がIAYで日本語の研修を受けます。



財団法人 日本語教育振興協会 認定校

IAY日本語学校

札幌市中央区南1西4 日之出ビル5階 Tel.011-281-5188
URL: <http://myaiy.com> E-mail: info@myaiy.com

にほんご JAPANESE

外国人のための日本語コース

- 大学進学コース(就学ビザ取得可)
- 週1回2時間コース
- プライベートレッスン
- 企業委託

